



平成24年 園だより 7月号



先月の保育参観には、多くの皆様に参加していただき、本当にありがとうございました。

幼児の子どもたちは、ちょっぴりドキドキして緊張した様子もありましたが、お父さんお母さんに見てもらえることではりきっていましたね。

1, 2歳児では、日頃のあそびを一緒に楽しんでもらったり、0歳児クラスは、園での子どもたちの様子をビデオで、見ていただくことができました。それぞれにお子さんの成長を感じていただき、楽しいひとときになったことと思います。

さて、大変遅くなりましたが、今回は、保育園で昨年度末に園に対するアンケートを行いました結果をご報告させていただきます。

殆どの保護者の方から「よこんで登園している」という回答をいただきましたが、中には「外あそびが少なく物足りない」という意見がありました。早速、一日の流れを見直し、午前だけでなく3時のおやつ後も園庭で遊ぶように改善していくようにしました。

「あそびを中心とした保育」につきましては、「子どもは、楽しみながら成長していると思う。幼児になったらあそびも大切だが、メリハリのある保育をすすめてほしい」という意見がありました。一部では「保育園は気ままに遊んでいるだけ」というイメージがまだあるようですが、いつも好きなあそびをしているのではありません。翠光では「何かできることより、何かがしたくなる子に」を目標にしています。

乳児期では、大好きな大人見守られながら、

年齢や発達に合わせたあそびを十分に経験し子どもたちが自ら「やってみよう」と思える意欲や「何かな」という好奇心が育つようにしています。

幼児期では、友だちとの関わりも多くなり、4, 5歳児になると、一緒に工夫したり、協力したりして遊ぶ姿も見られるようになりますので、私たちは子どもたちの動きをよく見て、各々の自主的な活動を伸ばすようにそっと見守ったり、さりげなく材料を用意するなど環境を整え、子どもたち自身が考えたり、工夫して遊べるようにしています。

また、「子どもの生活はあそびにある」とも言われていますが、幼児期の発達は、遊びながら自分の身体を通して、いろいろな事を知ろうとする特性があり、それが物事に取り組む意欲を伸ばしていくのだそうです。この時期にいろいろな体験を通して、意欲や好奇心をしっかりと育てていくことが、小学校に入ってから、文字や数字など抽象的な事柄を認知し、興味を持って学習に取り組む基盤となると考えられています。これからも保護者の皆様とのご協力のもとに、お子さんの成長を支えていきたいと思っています。

保護者と保育者のコミュニケーションに関しては、殆どの方が十分にとれているという回答で「園での様子をよく教えてもらっている」「お便り帳でも一日の出来事や成長が書いてあるので楽しみにしている」という記入がありました。一部「時には挨拶さえしない保育士がいて、他の園に比べて笑顔が少なく暗

い」という指摘がありました。挨拶は、人としてコミュニケーションをとる大切な一歩です。気持ちよく一日を始められるよう、職員間で挨拶の大切さを徹底していきたいと思えます。

また、お便り帳については、ご家庭と連携をとる手段の一つとして、できる限り書くようにしており、お昼寝の間に記入していますが、会議や保育準備をしたり、行事前など準備に追われたりして書けないときもあります。サインや簡単な一言でお返しする場合もあることをご理解いただきたいと思います。

行事については、「保護者同士のコミュニケーションの場となった」という声が多くありました。昨年は、幼稚園と保育園の連携が上手く取れないことがありましたが、今年度は幼稚園、保育園という考え方ではなく、認定こども園として一体的に考えてすすめています。いろいろと問題は出てくると思いますが、一つひとつ改善しながら楽しい行事にしていきたいと思っています。

その他たくさんの意見をいただきましたが、保護者の皆様の声を真摯に受けとめ、これからの保育に活かしていきたいと思えます。そして、子どもたちにとって、保護者の皆様にとって、楽しい保育となるようにすすめていくとともに、職員一同力を合わせて認定こども園として、新しい園づくりに取り組んでまいります。

お忙しい中、アンケートにご協力いただき、本当にありがとうございました。

保育園園長



たなばた

7月7日は七夕です。七夕は、星まつりで、天の川をはさんで東西に位置するアルタイ星とベガ星をけん牛（ひこ星）、織姫（織姫星）と呼んでいます。この二人は仲が良すぎて仕事をしなくなったため、天の神の怒りに触れ、別れ別れになってしまったのです。しかし、それから二人は、懸命に働き、一年に一度7月7日カササギの橋の上で会うことが許されたと伝えられています。

しかし、現実には、ふたつの星は、17億光年も離れていて、永久に星が出会うことはありませんが、二人が出会うことができるようにとの願いから中国の人が考え出した美しい伝説です。

日本では、平安時代に宮中で行われ、年中行事のひとつとなり、江戸時代になると民間でも広く行われるようになりました。



土用の丑の日

「どよう」は難しい言葉では「暦」をあらわす言葉のひとつで、海の日（7月中旬）くらいから、立秋の前日までの18日間を夏の土用といっています。

日本では、土用の間の丑の日に「うなぎ」を食べる習慣が江戸時代からあります。

暑い時期を乗り切る栄養をつけるためや、夏バテ防止に「うなぎ」を食べるのです。

耐震化工事について

先日は、お忙しい中、多くの保護者の皆様に、「耐震化工事の説明会」にご参加いただきありがとうございました。まだ、はっきりとした工事日程が決まっておりますが、決まり次第お知らせします。

また、わからないことや気になることがありましたら、いつでも声をおかけください。